

田植後1か月までに必ず中干し開始！

1 中干しの実施

中干しは根を地中深く張らせるために大切な作業です。適期に中干しを行うことで、以下のような様々な効果が得られます。

《中干しの効果》

- ①発根の促進、稲体の健全化
- ②土壤内の有害ガスの除去
- ③過剰分けつの発生抑制
- ④適正な葉色への誘導
- ⑤収穫時に機械作業が可能な地耐力の確保

《中干し開始の時期と方法》

- 田植後1か月までに遅れず開始しましょう。
(本格的な梅雨に入ると、十分に中干しができないので、実施が遅れないように注意して下さい。)
- 土壤条件等に応じて中干しの程度を調整しましょう。

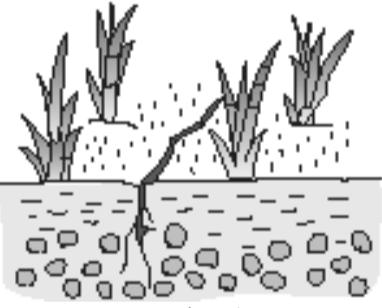
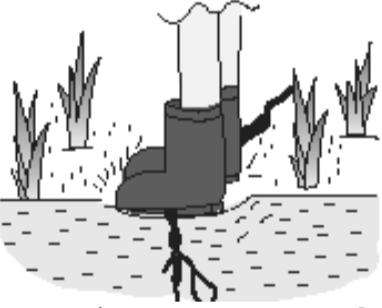
適期の中干し

遅れた場合



中干しの時期による根量の違い

【圃場条件別の「中干し」・「間断かん水」の目安】

圃場条件 管理	乾きやすい圃場 (砂質田・黒ボク等)	乾きにくい圃場 (半湿田・粘質田)
目安	3日間程度	5~7日間程度
中干し 仕上げ程度	 小さなヒビが入る程度	 足が少し沈む程度

中干しの終了は、圃場の中央部でくるぶしが軽く沈む程度を目安とします！



適切な中干し後の状態

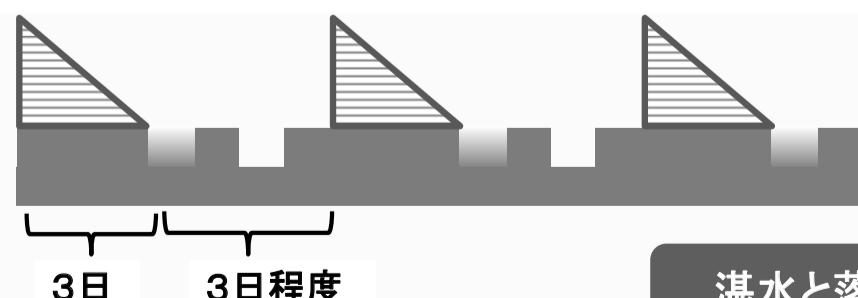
2 中干し後の水管理

- 中干し後から幼穂形成期までは「間断かん水」を励行しましょう。

根の発生は幼穂形成期まで急速に増えます。幼穂形成期まで湛水と落水を繰り返す「間断かん水」で、土壤に酸素と水を供給して根の発達を促しましょう。

大きなヒビが入るほど強く干しすぎると、根を傷めたり、急激な葉色低下を招く場合があるので、注意しましょう。

間断かん水のイメージ



湛水と落水を繰り返し、根に新鮮な水と空気を交互に供給

【間断かん水の方法】

乾きやすい圃場：入水→自然落水→2~3日落水
乾きにくい圃場：入水→自然落水→4~5日落水

- 間断かん水は幼穂形成期まで継続し、足跡の深さが3cm程度の硬さになるようにしましょう。

3 後期除草剤の散布

- (1) 雑草の発生状況を確認し、散布が遅れないようにしましょう。
- (2) 除草剤によって対象となる雑草や使用時期、使用量が違うので注意しましょう。
- (3) 敷設後5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水しないで下さい。
※バサグラン粒剤とクリンチャーバスME液剤を除く。

除草剤名	対象雑草	10a当たり 使用量	使用時期	使用 回数	使用上の注意点
テッケン 1キロ粒剤	ノビエ、マツバイ、 ホタルイ、ウリカワ ミズガヤツリ 他	1kg	移植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで)	1回	・効果を高めるため、5cm程度の湛水状態で 散布する。
テッケン ジャンボ	ノビエ、マツバイ、 ホタルイ、ウリカワ ミズガヤツリ 他	10袋 (500g)	移植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで)	1回	・効果を高めるため、6cm以上の深水状態で 散布する。
バサグラン粒剤	ホタルイ、コナギ ミズガヤツリ他	3～4kg	移植後15～55日 (収穫60日前まで)	1回	・ノビエには効きません。 ・晴天日を選んで散布する。 ・落水または、ごく浅水で散布する。 ・散布後3～4日間は入水・落水しない。
クリンチャー 1キロ粒剤	ノビエのみ	1kg	移植後7日～ ノビエ4葉期まで (収穫30日前まで)	2回以内	・ノビエ専用剤で残効性がない。 ・効果を高めるため、5cm程度の湛水状態で 散布する。
トドメMF 1キロ粒剤		1.5kg	移植後25日～ ノビエ5葉期まで (収穫30日前まで)		・ノビエ専用剤。 ・効果を高めるため、5cm程度の湛水状態で 散布する。
クリンチャー バスME液剤	ノビエ、ホタルイ、ウリ カワ、ミズガヤツリ、 オモダカ他	1,000ml 希釈水量 70～100ℓ	移植後15日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	3回以内	・晴天日を選び落水状態で散布する。 ・雑草の茎葉に付着するよう丁寧に散布する。 ・散布後3～4日間は入水・落水しない。 ・展着剤は加用しない。

6月15日～9月14日は、「農薬危害防止運動」期間です！

農薬使用が本格化する時期となりました。下記の重点4項目について留意し、適切に使用しましょう。

(1) 住宅地周辺で散布する時は事前に周知し、飛散防止を徹底

- ・農薬を散布するときには、事前に周辺住民への周知に努めましょう。
- ・飛散の少ない形状の農薬、散布方法、散布器具の使用に努めましょう。
- ・風の弱い時間帯を見計らい散布しましょう。
- ・散布時には風向き、散布器具のノズルの向き等に注意しましょう。



(2) 使用前には必ずラベルで作物名・使用方法等を確認

- ・農薬の使用にあたっては、ラベル（説明書）内容を遵守しましょう。

農薬の使用前にもういちど
ラベルを確認！



(3) 農薬は適切に保管・管理し、使用した場合は必ず記帳

- ・農薬は1回当たりの購入量を最小限とし、有効期限内に使用しましょう。
- ・冷涼な場所に農薬専用の保管庫を設置し、鍵をかけて保管しましょう。
- ・農薬の購入伝票等は保管し、使用後は履歴がわかるよう記帳しましょう。
- ・不要になった農薬や空容器は、適正に処分しましょう。



(4) 農薬を調整・散布する時は、マスクなど防護装備を正しく着用

- ・農薬を取り扱うときには、適正な服装で、保護具を正しく着用しましょう。